

平成30年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

附属天王寺中学校

1 附属天王寺中学校の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属天王寺中学校

(2) 所在地

大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88

(3) 学級数・収容定員

12学級(1学年4学級) 収容定員464人(1学級:1年36人, 2, 3年40人)

(4) 幼児・児童・生徒数

463人(男子人・女子人)

(5) 教職員数

校長(併任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 教諭 19人(うち, 臨時的雇用3人,),
非常勤講師 4人
事務職員 3人(専任1人, 事務補佐員2人, 臨時用務員(用務員)1人)

2 附属天王寺中学校の特徴

質実剛健の校風のもと、生徒一人ひとりがお互いの多様性を尊重し合う中で、主体的に協同的な学びを展開していくことを重視し、将来の市民社会をリードしていくための“生きる力”の育成をめざしている。
天王寺型中高連絡進学に基づく6年一貫教育の研究と実践を続けている。

3 附属天王寺中学校の役割

- (1) 大阪教育大学と一体となり、教育の理論と実践に関する研究を行うこと。
- (2) 教育に関する理論を実践し、授業や研究会で実証すること。
- (3) 大阪教育大学の教育実習機関として、効果的な実習活動を行うこと。
- (4) 大阪教育大学が行う現職教員の再教育の一端を担うこと。

4 附属天王寺中学校の学校教育目標

- ・ 正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心を持ち、透徹した判断力を養う。
- ・ 強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。
- ・ 他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。
- ・ 社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。

5 附属天王寺中学校の学校教育計画

1. 生徒の学力と、「生きる力」を育てる活動を、各教科・分掌で工夫し、実践する。特に、自治会やホームルーム等の集団における生徒の自主性と主体性に基づく諸活動をする。
2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択と実現に向けた取り組みを行う。
3. 学校独自の取り組みを通してカリキュラム全体の充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

6 附属天王寺中学校の平成30年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 正義を愛し, 真理を追究する旺盛な向学心を持ち, 透徹した判断力を養う。 強固な意志を持ち, 頑健な心身を育て, 自主的・積極的な実践力を身につける。 他人を愛し, 自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 社会の一員となるための, 責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	1. 生徒の学力と, 「生きる力」を育てる活動を, 各教科・分掌で工夫し, 実践する。特に, 自治会やホームルーム等の集団における生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を活用する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) ・生徒の学力向上と, 自立的な学習・生活習慣の確立を進める。 ・互いの個性と能力を尊重する態度を育成し, 個々の力量を十分に発揮させる。	①学習環境の中高間の調整を円滑にする。 (教務部)	日常業務として授業時程や時間割の変更等の連絡をその都度密に行っている。中高相互の行事時の授業体制の調整もほぼ円滑に行なうことができた。	係ごとの連絡のシステムを確立することで, より細かな連絡体制ができると思われる。	B	特になし	B	
	② 中学の自由研究と高校の課題研究の連携を図る。 (教務部)	中学の自由研究の優秀者が高校のSSH生徒研究会に出席し, 発表と見学を行なった。	中学生が体験してきた自由研究の指導方法を高校の課題研究の指導に生かす体制を教員間で作る必要がある。	B	特になし	B	

<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力向上と、自立的な学習・生活習慣の確立を進める。 ・互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、個々の力量を十分に発揮させる。 	<p>③ 生徒が行事に対して主体的に取り組むため、また達成感・充実感を持たせるために企画を計画的に立案していく。 (生指部)</p>	<p>週1回生徒指導部の会議をできるだけ行い、行事などの企画や反省を行った。また、生徒会や委員会では生徒自らが考え行動するように教師が支援した。</p>	<p>生徒が中心となって行っている活動をもっと学校に反映させ、生徒自らが考え行動したことの評価をもっと自分たちでさせていきたい。</p>	B	特になし	B	
	<p>④ 課題や問題の発見・提起を主体的に行い、それを出発点として対話的な学習を進めていくための方法と内容を、他の研究校に学び、先生方に情報提供する。(研究部)</p>	<p>目で見えて捉えられる「対話的」な学習は、グループ学習・ペア学習などの場が増してきた。また、他の研究校を視察して情報を得、教育研究会や普段の授業に生かせるよう努めることができた。</p>	<p>一方で、自己内対話については深く切れておらず、また、目で見えて捉えられる「対話」が、果たしてどのような学習効果として結実したのかが不明瞭な状況にあり、今後検証していく必要がある。</p>	B	特になし	B	
	<p>⑤ 健康・人権の観点からの、職員会議における生徒情報の共有、及び、特別支援委員会の定期的実施(健人部)</p>	<p>合理的配慮を必要とする生徒に対して実際に可能な合理的配慮を明文化し、対象生徒とその保護者に対して提案した。</p>	<p>合理的配慮を必要とする生徒の特徴を、教員が様々な観点から理解する必要があると同時に、研修によって常に情報や知識を最新のものに更新する。</p>	A	特になし	A	
	<p>⑥ 中学校3年間における人権教育のカリキュラムの作成 (健人部)</p>	<p>6月に大きな地震、9月には台風が来たため、計画を変更して、災害マニュアルの見直しに関する研修を実施することとなった</p>	<p>必要に応じて、年間の授業日数を確保することが必要である。</p>	C	特になし	B	
	<p>⑦ マルチメディア・コールセンターの更なる活用を促すために、教員に対する講習会を行う。(庶務部)</p>	<p>講習会を行うための連絡を行ったが、希望者がおらず、開催できなかった。</p>	<p>普段から、コールセンターの授業を見学する機会を設け、コールセンター施設を使うことで、できる授業の幅が広がることを周知する必要がある。</p>	C	特になし	B	

<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力向上と、自立的な学習・生活習慣の確立を進める。 ・互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、個々の力量を十分に発揮させる。 	<p>⑧ 読む、書く、調べる、を主軸とした授業を中心に、思考力、表現力、探求力、想像力を養い、「生きる力」につながる言語力をつける。 (国語科)</p>	<p>「自立した読書人を育てる」をテーマに重点目標の達成を目指し、日々取り組んできた。具体的には、中学校では、3年間で100冊の本を読むことを目標に、「読書ノート」を作成させ、言語力の基礎を築いた。</p>	<p>100冊の読書は、約9割の生徒が達成。しかし、自ら深みのある内容の本を選ぶ力も十分ではなく、探求力、思考力の育成という点において課題がこのころ。また、高校でも、中学で培った読書力をさらに伸ばす取り組みが必要。</p>	B	特になし	B	
	<p>⑨ ⑧のそれぞれの力を自律的、協働的に築こうとする精神を育てる。(国語科)</p>	<p>昨年度は小学校では実施できなかった研究会を、今年度は、小中高すべてで実施することができた。教員同士で協働的な学びについて考える場を持つことができた。</p>	<p>小学校から取り組んでいる、言葉を根拠に論理的に考える力を、中学・高校へとつなげていくことを意識した授業構想や日常の取り組みが必要である。</p>	B	特になし	B	
	<p>⑩ 議論や発表の機会を増やして、生徒自身の意見を発信する能力を高めるとともに、多様な意見に触れ相互に理解する態度を養う。(社会科)</p>	<p>多くの授業で議論や発表といった活動を含む実践を試みることもできた。表現力・発信力の育成という点では一定の効果を認めることができたが、思考の質的な変容が見られたとは限らない。また、生徒の主体的な態度の育成に関しては評価が困難であった。</p>	<p>授業の目標として、発進力の育成と思考の質的な変容のどちらにどの程度の重心を置くかは、学年によって異なる。中1から高3まで、それぞれの発達段階に応じた目標と評価基準が必要であり、その作成に取り組みたい。</p>	B	特になし	B	
	<p>⑪ 解法やコツの習得を教え込みにより行うのではなく、班活動等による発見的・試行錯誤的な方法で行う。 (数学科)</p>	<p>大教大数学会の本年度大会において、中・高の授業者2人はアクティブラーニングを柱とする公開授業を行った。その事前打ち合わせにおいて中・高数学科は一丸となり本件について検討した。</p>	<p>「具体的な取組内容」欄の活動を、今後も継続すべきと考える。もっと、このような活動が展開出来る場面を増やしたい。</p>	A	特になし	B	

<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力向上と、自立的な学習・生活習慣の確立を進める。 互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、個々の力量を十分に発揮させる。 	<p>⑫ 指導内容に応じて授業形態を考慮し、生徒間の自立的協同学習を促す。(英語科)</p>	<p>語彙や文法、技能面における英語指導や自文化・異文化理解教育をはじめとする国際理解教育、題材内容を中心とした活動など、指導内容・目標に応じてより適した指導方法の模索をした</p>	<p>これからの時代に即した能力の育成にはより強固とした中高一貫の指導カリキュラムの作成が急務である。</p>	<p>A</p>	<p>年度途中でALTが替わり、生徒の個人差に対する対応力が低下した感が否めないから。</p>	<p>C</p>	<p>ALTが途中で交代するような事態になったときは、英語科教員とALTの間で、生徒への対応など細かな情報共有を行うようにする。</p>
	<p>⑬ パートワークの機会を多く設け、共感と受容を繰り返し、様々な能力を発揮して互いに高めあえる授業を展開する。(音楽科)</p>	<p>劇やジェスチャー、楽譜分析など、音楽経験がない生徒でも活躍できる場所を与え、自らの能力を発揮することで、結果としてより良い音楽が引き出される授業を創った。</p>	<p>目を合わすことが苦手であったり、声を出せない生徒への心理的アプローチについて、専門家の意見を取り入れる必要がある。</p>	<p>A</p>	<p>特になし</p>	<p>A</p>	
	<p>⑭ 美術の幅広い表現・鑑賞活動における自己や他者との対話を通して、自分自身の見方や感じ方を豊かに広げながら、互いの「よさ」を認め合うことができるように指導する。(美術科)</p>	<p>自分自身の力だけではなく、一人ひとりの「よさ」をお互いに理解していくために、それぞれの「価値」を分かちあいながら、ともに学びあうことのできる関係をつくりあげることができた。</p>	<p>お互いが自分の「言葉」で語りあうことのできる関係、充実した美術の時間・場の構築を目指し、授業の内容の改善としてのカリキュラムの編成を行っていく必要があると考えている。</p>	<p>A</p>	<p>特になし</p>	<p>A</p>	
	<p>⑮ 技術領域・家庭領域とも、できるだけ実習する体験を増やし、学力を応用できる実践場面において、適切に学力を応用できる機会を増やして行きたい。(技術家庭科)</p>	<p>中1・中2・中3とも実習課題が2つ以上実施させることができた。その結果、単なる頭に入っている知識ではなく、実践場面に応用できる真の知識を生徒に獲得させることができたと考えている。</p>	<p>実践場面に応用できる真の知識を生徒に獲得させることができたと考えている。しかし、個人差が大きいことも現実であり、次年度からはそれをどのように補足するかが改題である。</p>	<p>B</p>	<p>特になし</p>	<p>B</p>	

6 附属天王寺中学校の平成30年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。 強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択と実現に向けた取り組みを行う。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) ・生徒の学力向上と、自主的な学習・生活習慣の確立を進める。 ・互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、個々の力量を十分に発揮させる。	① 授業を通して、心を豊かにし、姿勢や表情の意識を高め、課題を乗り越えて同じ目的を達成することで、個々の自己実現に繋げる。 (音楽科)	5年間の一貫した教育で、写真や絵から感じる心を育てるスピーチ、レジリエンス教育を意識した自己の強みを知るスピーチ、他人に共感し、受容する Good&News スピーチを継続的に行った。	課題を有する生徒について、担任団とより密に情報を共有し、双方の立場から支援していく必要がある。	A	特になし	A	

	②自らで主題を生み出していけるような場をつくり、生徒一人ひとりが心豊かな生活を創造していくための素地を養いながら、自然や生活、社会とのかかわりに目を向け、自らの世界を豊かに広げていくことができるように支援する。(美術科)	生徒一人ひとりが、自らで「表したいこと」を生み出し、その実現に向けて「つくりながら考える／考えながらつくる」過程の重要性を生徒自身が理解することができていた。	自分の目標に向かって取り組んでいくために「可能性」を発揮しながら、柔軟にかかわることのできる授業内容の提案が必要である。特に中学2・3年生へは、その時期なりのよさを存分に生かすことのできる内容を検討していく必要があると考える。	A	教室外での学習活動をもっと増やしてはどうか。	C	生徒の安全に考慮しながら、機会の増加を検討する。
(2) ・将来の目標を見据えた進路意識を高めさせ、その実現に向けた支援を行う。 ・生徒と教員が協働して健康と安全を意識した教育環境の整備を図る。	①生徒と教員の連携や生徒の状況把握のために生徒全員に生活アンケートを行い、面談を通して相互理解を深めている。 (生指部)	生活アンケートを参考に面談を行い、生徒の把握に努めた。また、各学年においての生徒指導については、密に連絡をとり、概ね対処できた。	1学期に面談を行うことによって、生徒状況を早く把握し生徒一人一人がよいスタートをきるきっかけにはなったが、一年を通して細かく把握することができなかつたので、できる限り毎学期行うよう検討していきたい。	B	アンケート調査や生徒との面談は年度当初だけでなく、毎学期に実施していただきたい。	C	年間での計画を複数回にするよう対応する。とくに、2学期の終わりごろが適していると考えられる。
	②・緊急備蓄品と備蓄倉庫の管理や緊急時対応カードの導入 ・マニュアル改訂を中心とした次年度に向けての避難・防災訓練のあり方検討と生徒・教員における防犯・防災(減災)意識の向上 (健人部)	・生徒個々に対する緊急備蓄品の購入と備蓄倉庫の管理、緊急災害時対応カードを導入することができた。 ・マニュアル改訂を行い、6月の地震を受けて実際の災害を想定した防災・避難訓練を検討・実施し、生徒・教員における防犯・防災(減災)意識の向上につなげることができた	生徒の自律的な安全確保意識やそれと関連した避難訓練を定期的に行う。同時に、教員による安否確認の手順の考察	A	特になし	B	

<p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の目標を見据えた進路意識を高めさせ、その実現に向けた支援を行う。 ・生徒と教員が協働して健康と安全を意識した教育環境の整備を図る。 	<p>③・防災・防犯の意識を高めるために、年度の早い段階で、教員に対し災害システムの周知徹底を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員からの備品・営繕に対する要望に迅速に対応し、環境改善に努める。庶務内で行う修理の範囲も広げる。 <p>(庶務部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健人部と協力し、災害システムの周知徹底を行った。 ・備品・営繕に対する要望は、全て早い段階で対応した 	<p>来年度に行われる改修工事に向けて、大掛かりな調査を進める必要がある。</p>	<p>A</p>	<p>特になし</p>	<p>A</p>	
	<p>④ 理科の授業では多くの実験実習が行われることから、その際の安全確保に関しては全ての教員が常に意識し取り組む。(理科)</p>	<p>化学分野では、実験での器具の扱い方を見直し、その改善を図った。また、廃液の削減を行った。地学分野では、地学実習中の安全確保のため保護メガネ使用を徹底した。</p>	<p>生物分野、物理分野でも環境整備と実験方法の見直しが必要である。また、課題研究に関しても、安全を意識して取り組む必要がある。</p>	<p>A</p>	<p>特になし</p>	<p>A</p>	
	<p>⑤ 音楽室と音楽研究室を、生徒と教員で協働して、より安全で、授業と部活動で使用しやすいものに創り上げる。(音楽科)</p>	<p>生徒と共に、全ての棚の中と、物置き場を整備し、楽譜のリストアップ表を作成し、誰もがどこに何が収められているかが分かるように整備した。</p>	<p>次年度に予定されている改修工事に向けて、より快適な空間にするため、長期的な見通しをもって、教育環境の整備を図る必要がある。</p>	<p>A</p>	<p>特になし</p>	<p>A</p>	
	<p>⑥ 老朽化している体育施設の補修や器具等の安全チェックを行う。物品の管理、整理整頓を行う。(保健体育科)</p>	<p>クラブハウス建設により、クラブハウス倉庫を高校が、横の倉庫を中学校の倉庫とし管理がしやすい工夫を行った。また、3月には走り幅跳びの改修も予定されている。</p>	<p>体育館の雨漏りや倉庫の扉が破損しているなどの状況は、いまだに解決できていないので今後も連絡していきたい。</p>	<p>A</p>	<p>特になし</p>	<p>A</p>	

6 附属天王寺中学校の平成30年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。 強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	3. 学校独自の取り組みを通してカリキュラム全体の充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) ・生徒の学力向上と、自主的な学習・生活習慣の確立を進める。 ・互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、個々の力量を十分に発揮させる。	① 学校外の活動に積極的に参加し、活動の報告を学校ホームページに掲載し、社会に発信していく。(生指部)	行事などの日程の関係で普段参加している地域のボランティア活動に参加することができなかった。	校外での活動に限らず、校内での生徒会活動や委員会活動など生徒の主体的な活動をもっと発信していきたい。	C	特になし	A	
	② 「主体的・対話的で深い学び」と「評価」との一体化に着眼して、教科会・公開授業・小中高研究会等での研究に取り組む。また、教育研究会や研究集録を、日常的な研究成果の発表・発信の場として位置づける。(高)定期考査の変更に伴う効果と課題について検討する。(研究部)	「主体的・対話的で深い学び」については、授業実践を通して具体的な在り方を探り、教育研究会や「ふだんの授業展覧会」で提示することができた。一方、評価については、各教科で検討中である。(高)定期考査の変更については、それに伴う様々な評価方法を模索中である。	定期的な各教科や全体の場で議論して「深い学び」や「評価」についての共通理解を深めていく時間の確保が必要である。こうした共通基盤の上に、各教科の独自性を打ち立てていくことが急務である。	A	特になし	A	

<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力向上と、自立的な学習・生活習慣の確立を進める。 ・互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、個々の力量を十分に発揮させる。 	<p>③ 外部講師などを活用し、多様な分野に関するより現実的、あるいは専門的な立場からの見方・考え方を知り、社会的な視野を広げる学習機会を増やす。 (社会科)</p>	<p>主に中学校の公民的分野で、主権者教育の一環として、外部講師を活用した授業を試みた。生徒の学習意欲を引き出すことができ、有効であった。ただし、時間の制約から、その機会は限定的にならざるをえない。</p>	<p>特定の科目・分野にとどまらず、さまざまな科目・分野での実践を試みたい。目標の明確な授業にするため、授業者のねらいと外部講師の目的とを丁寧にすり合わせる必要がある。</p>	B	特になし	A		
	<p>④ 定期テスト以外のものによる評価方法を模索・実践し、その成果を中高数学科内で報告し合う。また大阪教育大学数学会に関わる教育実践(研究会・例会での授業実践)を、より充実したものへと発展させる。 (数学科)</p>	<p>大教大数学会の本年度大会において、本中・高の授業者達は「現実世界の問題を数学を以て解決するタイプの教育内容」を提示し、その授業実践の一端を公開した。</p>	<p>「達成状況」欄に“成果が得られた”と記したが、教育内容の更なる開発とその成果の更なる発信とを充実させるべきだと考える。</p>		B	特になし	A	
	<p>⑤ 科会や小中高研究部会において多様な評価の方法について情報交換を行い実践していく。 (理科)</p>	<p>教育研究会では、中・高ともに、評価を重視した実践発表を行った。 普段の授業においては、各自が実験やレポート、その他生徒の活動を元にした評価を積極的に行った。</p>	<p>理科においては各科目、さらには他の教科と、評価方法の共有をする。また、評価方法そのものについても深めていかなければならないと考えている。 新しい評価に関しては評価基準を生徒に示し理解させる必要がある。</p>		A	特になし	A	
	<p>⑥ 筆記考査だけでなく、パフォーマンステストのあり方を中高を通じて模索し、共有する。 (英語科)</p>	<p>各教員が意識的に行うことはできなかった。</p>	<p>教科会を待たずにメール等を活用し、情報交換をしていくことが挙げられる。</p>		C	特になし	B	

<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力向上と、自立的な学習・生活習慣の確立を進める。 互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、個々の力量を十分に発揮させる。 	<p>⑦ 全体研究テーマに沿う形で教員研修を行い、研究発表大会に向けて準備し、有意義な研修発表大会を行う。(保健体育科)</p>	<p>教育研究会で「学びの自立をめざす評価の工夫と改善」ということで中学校では体育を高校では保健を取り組んだ。それぞれ評価について質疑応答を重ねることでより深い協議へとつなげることが出来た。</p>	<p>機会があれば、更なる情報発信の場の機会を増やすことが必要であると感じた。教師が興味を持って参加できるような魅力を作り、参加者数を増やす必要があると感じた。</p>	A	特になし	A	
	<p>⑧ 定期テスト以外の作品や実践における課題解決の結果を、どのような方法で評価し、評定に結びつけるかが課題である。技術と家庭科の教員が、しっかりと話し合っ、評価方法を確率させたい。(技術家庭科)</p>	<p>年度当初には、2人の教員が、話し合っ評価方法を確率させたいと考えていたが、個々の教員の忙しさで、しっかりと話し合いができていない。</p>	<p>個々の教員の忙しさも含めて、話し合いの計画を決めておくべきである。</p>	<p>忙しさを理由にしていると、多くの企画はできないものになるだろう。実現させる努力が必要だ。</p>	C		C
<p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 附属校として求められる研究テーマを設定し、その取り組みと成果を発信する。 生徒の対外的な成果発表を支援する。 	<p>① 中高のカリキュラム委員会との情報共有を図る。 (教務部)</p>	<p>学習指導要領の改訂に関わるカリキュラム委員会の動きについては、教務部との連絡を行ないつつ進めている。</p>	<p>高校については、カリキュラム委員会において今年度行なった情報収集(研修会への参加等)をふまえ、来年度より進められる具体的なカリキュラムの策定と連携していく必要がある。</p>	B	特になし	A	
	<p>② 今後の教科指導のあり方を再検討するために、中・高連携して、新指導要領に関する研究を進める。(社会科)</p>	<p>教育研究会に向けての議論の中で、新指導要領についてのある程度の理解は進められたが、体系的に検討することはできていない。また、それ以降は継続できておらず、不十分である。</p>	<p>計画的に研究を進める。そのための時間確保も必要である。</p>	<p>教育研究会のためだけに議論・検討すると解釈されるのではないかと。分析結果の表現を検討すべきだ。</p>	C		C

<p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属校として求められる研究テーマを設定し、その取り組みと成果を発信する。 ・生徒の対外的な成果発表を支援する。 	<p>③ 中高の教科会をより充実させ、指導方法の改善や生徒の抱える課題の共有、教材の研究、学習評価の検討などの情報交換を密に行う。6年間を見通した教科指導をより重視し、教科として不断の授業改善を目指す。 (数学科)</p>	<p>「具体的な取組内容」欄に記した“指導方法の改善”については、大教大数学会の本年度大会の授業実践を通してその実現を試みた。その他の目標は、十分には達成出来なかったが、これは教科会議の数が少ない事が最も原因であった。</p>	<p>指導方法の改善については、大教大数学会での実践場面以外においても中・高でよく話し合い進展させたい。来年度も、情報交換を密に行い、6年間を見通した教科指導を重視した不断の授業改善を目指したい。</p>	C	特になし	A		
	<p>④ 探究を目的とした実験に取り組む。(理科)</p>	<p>中学校では新課程を先取りした授業実践を研究授業で公開した。各科目では探究を意識した実験を実施した。</p>	<p>探究に関しては実験以外の授業でも探究活動を重視した授業を行う方法を考えていかなければならない。小中高研究部会でも、授業見学を含め情報交換を深めたい。</p>	<p>探究に関しては実験以外の授業でも探究活動を重視した授業を行う方法を考えていかなければならない。小中高研究部会でも、授業見学を含め情報交換を深めたい。</p>	A	特になし	A	
	<p>⑤ 新学習指導要領がめざすバランスのとれた4技能の育成するために、ALTとの授業を質・量とも充実させる。(英語科)</p>	<p>技能統合型授業は従来より行ってきたため、それに加えて題材中心の授業展開を試みた。そこにALTとのティーム・ティーチングが大きく関わった。また、ALTの授業力向上のための話し合いや研修計画を立てることができた。</p>	<p>来年度はさらにALTとの効果的な授業を模索するために、授業見学や協議を多くしていく必要がある。</p>	<p>来年度はさらにALTとの効果的な授業を模索するために、授業見学や協議を多くしていく必要がある。</p>	A	特になし	A	
	<p>⑥ 技術領域・家庭領域とも、全て指導分野を実施することが、大きな改訂の方針である。そのため、技術は中1～中3の3学年、家庭は中1～高3までの6学年を見通した、授業計画でなければならない。 (技術家庭科)</p>	<p>全ての指導分野を実施することが、改訂の大方針である。そのため、技術は中1～中3の3学年、家庭は中1～高3までの6学年を見通した、授業計画でなければならない。</p>	<p>しっかり計画し、シラバスを公開するために、中高の担当教員が、もっとコミュニケーションをとるべきである。</p>	<p>しっかり計画し、シラバスを公開するために、中高の担当教員が、もっとコミュニケーションをとるべきである。</p>	B	特になし	A	

